

解答は別紙の解答欄に記入しなさい。

I 以下の文章を読み、空欄（ A ）～（ J ）に最も適切な語句を記入し、下線部（1）～（5）に関する各設問に答えなさい。

ヨーロッパ史の中で自由とは決して単一で抽象的な概念ではなく、多様な意味を指し、その内実は時代とともに変遷し、地域、身分、階級ごとに異なっていた。1789年8月26日にフランスの国民議会で採択された『（ A ）』の第四条で「自由とは、他人を害しないすべてのことをなしうることにある」と記され、イギリスの功利主義的思想家（ B ）が著した『自由論』（1859年）の中では、「自由の名に値する唯一の自由は、われわれが他人の幸福を奪い取ろうとせず、また幸福を得ようとする他人の努力を阻害しようとしなにかぎり、われわれは自分自身の幸福を自分自身の方法で追求する自由である」と定義されている。しかし、近代市民社会の基盤の一つとなった、個人を主体とした、そのような普遍的な自由は、中世では一般的には認められてはいなかった。中世の自由は、しばしば国王などのより上位の権力によって権利として承認され、与えられたものであり、都市において多くの場合その対象は、個人よりもむしろ集団や共同体を単位としていた。ドイツにおいてそれは、時には帝国直属という特権とともに与えられた。<sup>(1)</sup>高度な自治権を獲得した自由都市の中には、自己の権益を守るために、都市同盟を締結するものがあつた。北イタリアの諸都市は、フリードリヒ1世の介入から自治権を防衛するために、12世紀にロンバルディア同盟を結んで戦い、さらに1226年にもシュタウフェン朝の皇帝（ C ）に対抗してその同盟を再結成した。

中世都市では、獲得した自治権の強弱によって、実際に自由の内容も異なっていた。多くの都市において市民生活の中心は、市場が開かれていた広場であつた。その周囲にしばしば市庁舎、裁判所、ギルドハウス、貨幣鑄造所などの公共建造物が建設され、市有の給水用の井戸や泉がつくられ、そこから公共の水道が引かれていた。この広場で様々な祝祭が開催されたり、政治集会が開かれたりしていたことから、そこは中世の市民にとって自由と自治を象徴する場所であつたが、権力者は犯罪者や政治犯を公開処刑するために、その広場を政治的に利用した。古代ギリシアのポリスでも、公共建造物や柱廊に囲まれた（ D ）と呼ばれた広場が、政治・司法・経済活動の中心地であつた。「都市の（ E ）は自由にする」というドイツの法諺にあるように、<sup>(2)</sup>中世ヨーロッパでは農奴が通常1年と1日以上領主からの追求を受けることなく都市に住み続けた場合には、自由人になることが認められた。周囲を軍事的に防御するために建設された市壁は、外界との区別を明確化して、自由と自治を享受している特別な平和空間を象徴する決定的な印としての意味を持っていた。そのような自由とは、それをまだ享受していない人々を排除し、共同体の構成員のみに限定された特権的地位を保持する役割を果たし、多分に保守的性格を帯びていたのである。

大学の誕生は、中世都市の中で広まっていた自由や自治の理念と密接な繋がりを持っていた。シチリア王を兼ねていた皇帝（ C ）によって官吏養成のために設立されたナポリ大学の事例があるも

のの、<sup>(3)</sup>多くの大学はギルドやツンフトに類した教師や学生の組合が発展し、自然発生的に成立したものであり、当初大学は建物として固定された校舎や図書館を所持していなかった。ローマ法学で有名なボローニャ大学は、外国人留学生が相互の安全確保と自衛のために団結した結社に由来した。歴史的に大学と深く関係した universitas というラテン語は、本来宇宙や学問の普遍性という意味よりは、そのようなグループ全体を指していた。中世の基礎的学問であった自由七科は、初級三科 (trivium) としての ( F ), 修辞, 弁証法と、上級四科 (quadrivium) としての算術, 幾何, 天文, 音楽で構成されていた。それらの教養科目の内容は、古代ギリシア・ローマの古典と関わっていた。中世の学部としては、神学部, 法学部, ( G ) 学部, 人文学部という四つのものが中心であった。近代でもリベラル・アーツを重視する教育思想は継承され、例えば ( B ) は、1867年のセント・アンドルーズ大学名誉学長就任講演の中で、大学は職業教育の場ではなく、その目的は有能で教養ある人間を育成し、人格の完成に貢献することにあると訴えている。

中世社会において総じて自由とは、自己を強力に保護してくれる領主権力の中に組入れられることを意味し、受動的な特性を持っていたが、必ずしもすべての自由が上位の権力から特権として与えられたわけではなく、民衆が支配勢力に対する闘争に勝利して、政治的独立や自治を自力で獲得した場合も見られた。1381年のワット・タイラーの乱に際して聖職者ジョン・ボールは、「アダムが耕しイヴが紡いだ時、だれが ( H ) であったか」と述べ、封建的拘束の廃止を求め、原初的な絶対的平等を主張した。フランスでも百年戦争期の1358年に農民が重税と農地の荒廃に反発して、( I ) と呼ばれた反乱を起こし、<sup>(4)</sup>ドイツでも16世紀に農民戦争が勃発した。これらの農民蜂起は結局鎮圧されてしまったが、西洋には自由のために抗議する伝統があり、例えばフリースラントやスイスの一部の農民は高度な自治権を保持していた。西洋の多くの農村においても、共同体自治の理念が自由の概念と結合した。中世中期に形成され始めた農村共同体は農業社会の中核的要素を構成し、村落裁判権を行使して自律性を確保し、法人格として独自の印章を持つこともまれではなく、各地で村落が教会財産の監督権や司祭選出権を要求する事例が確認された。共同体集会は村の最高議決機関であり、そこで規約の制定や村長などの役職の選出が行われた。その構成員は原理的に平等であったが、十全な政治的権利の所持者は基本的に家父に限定された。そのような共同体的な自由と自治の原理は、しばしば領主裁判権と対立し、領主は村の人事に介入したり、農民が大切にしてきた古き善き法の改ざんを行ったり、共有地の権利を侵害したりした。

近世絶対主義における中央集権化の進展によって王権が強化されると、<sup>(5)</sup>身分制議会は次第に弱体化され、中世に広まっていた自由や自治も抑圧され、修正を余儀なくされた。しかし、時にはそのような古き自由が、国王や諸侯に対する蜂起の根拠となり、オランダやスイスのように、君主権から独立した共和制国家の形成原理の一つとして発展した。17世紀初頭までに両国は、事実上の政治的独立を達成していたが、国際的にはウェストファリア条約によって正式にそれが承認された。ドイツ的な自由を尊重したこの条約の締結によって、神聖ローマ国内での諸領邦の地位とその統治権が確認され、主権国家体制の形成が助長され、アウクスブルクの和議では異端視されていた ( J ) 派の信仰が法的に公認された。

設問（１）下線部（１）に関連して、中世にはエルベ河畔にあるハンザ同盟の中心地として北海交易で発展した自由都市で、19世紀に作曲家ブラームスが生まれた港町の名称を答えなさい。

設問（２）下線部（２）に関連して、農奴制に関して説明した文章（ア）～（オ）のうちで、最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

（ア）一般的に農奴には結婚の自由が認められていたため、異なる領主の支配下にある農奴同士の結婚や、自由人と農奴との間の身分を越えた結婚に対する制限はなく、そのような結婚の際に領主から罰金を科されることはなかった。

（イ）イングランドでは中世後期の農民反乱が鎮圧されると、農民の地位が著しく悪化し、長期間にわたって農奴制が強化された。その影響は近世まで残存し、ヨーマンなどの自営農民が出現するのは、エリザベス１世の時代になってからのことである。

（ウ）農奴制とは、領主が農民を人格的に支配する制度であり、多くの場合農奴は、自己の出生に従って非自由人として扱われ、移動の禁止ないしは制限を受け、死亡税による収奪、毎年の農奴承認料の納入、賦役の履行など、経済的にも搾取されていた。

（エ）中世後期のフランスでは、黒死病の流行によって農村人口が著しく減少し、農民の土地保有条件は悪化し、荘園領主の権限が強化された。このため多くの自由農民が農奴へと降下させられ、自由農民は減少した。

（オ）エルベ川以東の地域では、16世紀以降に大農場経営のグーツヘルシャフトが支配的となり、多くの農民が賦役から解放されて、移動の自由を獲得し、各地で出稼ぎ労働を行った。これにより、広範囲に富裕な農民層が形成された。

設問（３）下線部（３）に関連して、中世カトリック神学の最高権威の一つであった大学で、トマス・アクィナスが教授として教鞭を執り、後にエラスムスやイグナティウス・ロヨラなどが学んだ場所を（ア）～（オ）の中から一つ選び、記号で答えなさい。

（ア）サレルノ大学              （イ）ジュネーヴ大学              （ウ）プラハ大学

（エ）ベルリン大学              （オ）パリ大学

設問（４）下線部（４）に関連して、「農民戦争の記念像」を描いたニュルンベルク出身の画家で、遠近法・人体比例理論・解剖学を身につけて「四人の使徒」「メランコリア」「死と悪魔と騎士」などの作品を描き、神秘主義的でどこか憂鬱な心情を表現した人物の名前を記しなさい。

設問（５）下線部（５）に関連して、全国三部会は絶対王政期に次第に存在理由を失い、170年以上も開催されなかったが、1614年にそれが招集された時のフランス王の名前を挙げなさい。

Ⅱ 以下の文章を読み、空欄（ A ）～（ J ）に最も適切な語句を記入し、下線部（1）～（5）に関する各設問に答えなさい。

アフリカ大陸の全人口の実に 4 割以上がイスラーム教徒であり、世界のイスラーム教徒の 4 分の 1 以上がこの大陸に居住していることはあまり知られていない。7 世紀にアラビア半島のヒジャーズ地方に出現した一神教のイスラーム教は、アフリカにとっても決して軽視できない歴史の動因であった。そして、イスラーム教の地域的な拡大の歴史においても、アフリカは注目すべき舞台の一つであったといえよう。

イスラーム教の開祖ムハンマドの教えを受けた後継者たちが統治を担った正統カリフ時代に、イスラーム勢力はアラビア半島の外へと進出し、第 2 代正統カリフのウマルの治世にはビザンツ帝国からエジプトを奪い取った。以後、ナイル川流域のこの豊かな灌漑農業地帯を基地として、アラビア半島のイスラーム政権が支配する領域は、アフリカの地中海岸に沿って西方へと広がっていった。こうしたイスラームの大征服の軍事的な拠点として建設されたのが、アラビア語で（ A ）と呼ばれる軍営都市である。代表的な（ A ）として、イラクのバスラやクーファ、北アフリカのカイラワーンを挙げることができるが、ナイル川の河岸にも新たな軍営都市としてフスタートが設けられた。現在のカイロの南部に位置するフスタートは、古代にヘレニズムの学術の中心であった地中海都市のアレクサンドリアに代わってエジプトの中心都市となり、やがてインド洋と地中海の二つの経済圏を結ぶ国際的な商業ネットワークの要として機能する大都市へと成長していった。

シリア総督であったウマイヤ家の（ B ）が開いたウマイヤ朝は、単独のイスラーム王朝としては史上最大の領土を実現した。<sup>(1)</sup>シリアのダマスカスを首都としたこの王朝の時代に、イスラーム政権の版図は北アフリカからヨーロッパのイベリア半島へとさらに拡大していった。その後、革命的な運動によって 750 年にウマイヤ朝を倒して成立したアッバース朝は、大西洋から中央アジアへと至るその広大な領土を引き継いだ。早くも 8 世紀の末には政治的な解体が始まった。こうして北アフリカにも、地方的なイスラーム王朝が相次いで誕生することとなった。すなわち、第 4 代正統カリフのアリーの子孫が現在のモロッコの地に樹立した（ C ）朝、少数派のハワーリジュ派が建てたルスタム朝、そして、当時は「イフリーキヤ」、つまり「アフリカ」と呼ばれていた現チュニジアの地に興ったアグラブ朝などである。このうち、アッバース朝カリフの権威を尊重しながら自立化したスンナ派王朝のアグラブ朝は、地中海の交通の要衝であったシチリア島への軍事遠征を行い、9 世紀末までにその全島を支配下に組み込んだ。現在はイタリアの一部であるこの島は、中世にイスラーム政権の支配を経験したのである。同島の中心都市として発展したパレルモは、後ウマイヤ朝の首都として繁栄を極めていたイベリア半島の大都市（ D ）には及ばなかったが、この時代の地中海世界における重要都市の一つであった。シチリア島は以後、ノルマン朝期にかけての時代に、イベリア半島とともに、ヨーロッパとイスラーム世界の文化や学術の交流の舞台として注目すべき歴史的役割を担

うこととなったのである。

以上のように、北アフリカへのイスラーム勢力の拡大は軍事的征服を重要な契機としていたが、サハラ沙漠以南へのイスラーム教の浸透についてみれば、むしろイスラーム教徒の商人たちの平和的な活動による交易網の拡充が重要な役割を演じた。「沙漠の船」とも表現されるヒトコブラクダが運輸の中心を担ったサハラ交易を通じて、イスラーム化が進む北アフリカの地中海沿岸地域とサハラ沙漠の南縁に位置するサヘル地域との間の交流が盛んになり、イスラーム教が徐々に伝播していったのである。サヘル（サーヒル）は「岸边」を意味する語である。それは、「海」と「沙漠」の近似性を前提とした呼称であったといえるだろう。そして、このように活性化したサハラ沙漠越えの長距離交易にも促されて、<sup>(2)</sup>ギニア湾に注ぐ西アフリカの大河である（ E ）川の流域などを中心に、13世紀前半に始まるマリ王国、さらには、ガオやトンブクトゥなどの諸都市を支配し、アスキア・ムハンマド王の時代に最盛期を迎えた（ F ）王国のような大規模なイスラーム国家が興亡することとなった。

これに対して、東アフリカにおけるイスラーム教の浸透に大きな役割を果たしたのは、モンスーンを活用したインド洋の海上交通であった。そこでの遠隔地交易の活動を支えたのは、ペルシア湾やアラビア海を中心に広域で利用されるようになった（ G ）船である。鉄が用いられないこの三角帆の木造船の中には、積載量が180トンに達する大型船もあった。インド洋の東西を結ぶ広域的な人の移動と交流は、たとえば、アフリカ東海岸に程近い<sup>(3)</sup>マダガスカル島の先住民が10世紀頃に東南アジア方面から来住したとみられることにも示されている。

こうしたインド洋の海域世界の一部として、13世紀頃から、現在のソマリアからモザンビークに至る東アフリカの海岸部にマリンディ、モンバサ、ザンジバルなど数多くの交易都市が隆盛した。これらの諸港は、東アフリカにおけるイスラーム教の受容の先進地域であり、それぞれが島や海岸の小さな都市国家といった様相を呈していた。そこでは、アフリカのバントゥー系の言語が外来のアラビア語などと接触して生まれた（ H ）語を基に一つの文化圏が形づくられていった。ちなみに、現在でも東アフリカのリンガ・フランカ（広域共通語）として使用されているこの言語の名称も、やはり「岸边」に由来する。14世紀の世界旅行者として有名な<sup>(4)</sup>イブン・バットゥータは、東アフリカのこうした港町の代表格であり、現タンザニアの中南部のサンゴ礁やマングローブに囲まれた小島に位置する（ I ）について、その旅行記に「最も華麗な町の一つ」と表現し、この町を統治していた信心深いスルタンが住民に対してみせた寛大なふるまいを賞讃している。（ I ）は、現ジンバブエから現モザンビークにかけての地域を支配していた（ J ）王国で産出される金をインド洋に積み出す際の港であったソファラも支配下に置き、繁栄を謳歌した。しかし、16世紀に入ると、<sup>(5)</sup>インド洋の海域に進出したポルトガルの勢力による沿岸部の支配が自由な交流を妨げるようになり、上記の東アフリカ諸港市は衰退や停滞を余儀なくされたのである。

設問（１） ８世紀初頭、下線部（１）の都市にカリフのワリード１世が建てた中心的な宗教施設の名称を記しなさい。

設問（２） 下線部（２）に面したガーナにおいて独立後に初代首相を務め、パン・アフリカニズムの指導者として知られる政治家は誰か、記しなさい。

設問（３） 下線部（３）は、アフリカ分割を主題とした1884～1885年のベルリン会議の後にフランスによって植民地化されていたが、その後、「アフリカの年」に独立を達成した。その年は何年であるか、記しなさい。

設問（４） 下線部（４）の生誕地であり、1905年に第１次モロッコ事件の舞台となった大西洋の海港都市の名称を記しなさい。

設問（５） 下線部（５）に関連して、ポルトガルが占領してペルシア湾における主要な拠点とし、その後、1622年にサファヴィー朝のアッバース１世が奪取した島の名称を記しなさい。

### Ⅲ 以下の文章を読み、空欄（ A ）～（ J ）に最も適切な語句を記入しなさい。

2011年に始まったシリア内戦は、多くの文化遺産を危機に陥れ、同国民の半数以上から家と故郷を奪っている。文化遺産破壊の例をひとつだけあげるならば、昨年８月に、シリア中部にある古代ローマ期の都市遺跡で世界文化遺産でもある（ A ）遺跡のバール神殿が、IS（自称「イスラム国」）によって爆破され、長く遺跡の管理責任者であった考古学者が殺害される衝撃的な事件があった。イタリアやギリシアへと命の危険を冒して海を渡り、陸路でドイツなどのヨーロッパ諸国を目指す難民の流れも絶えない。同じく昨年夏、トルコの海岸に打ち上げられた男の子の遺体の写真がインターネットで共有され、世界を突き動かしたのは、記憶に新しい。欧米諸国は難民の受け入れを表明しているものの、避難所などの整備は遅れ、ハンガリーの首都（ B ）ではドイツ行きの列車を待つ人が駅からあふれた。このような戦争や内戦によって国を逃れる難民は、通常の移民とは異なる人道的な対応が求められる大量の人の移動である。

これとは性格が違ふものの、自らの意図に関わらず大量に人が移動させられた事例を歴史のなかを探すならば、アフリカ大陸から南北アメリカ大陸および西インド諸島に移動させられた黒人奴隷たちがあげられる。そもそも奴隷という制度自体は、洋の東西を問わず古代から存在した。古代ギリシア

においては、借金を返すことができずに奴隷として働くことを命じられた「債務奴隷」や、戦争による捕虜や、ギリシア語を話すことのできない「蛮族」が、おもに家内奴隷として使われた。スパルタではスパルティアタイ（スパルタ市民）が、征服した隣接地域の非ドーリア系住民を（ C ）（隷属農民）として支配し、所有地を耕作させた。ローマ帝国の時代になると、征服戦争で得た大量の捕虜に加えて、奴隷商人によってロシアやゲルマニアから奴隷が連れて来られるようになった。

中世ヨーロッパでは、農業労働は農奴によって担われるようになり、労働力としての奴隷が使われる場面は少なくなる。ただ、ガレー船の漕ぎ手のような辛い労働は、もっぱら受刑者や、異教徒を中心とする奴隷によって担われつづけた。ガレー船が使われた戦いの代表例としては、スペインとローマ教皇、ヴェネツィア、カール5世から（ D ）島を与えられたヨハネ騎士団などの連合艦隊がオスマン朝を破ったレパントの海戦があげられる。この頃から、風の多い地中海での軍船としての利用を除き、船の主流は帆船へと移っていく。ガレー船は構造が複雑で、多くの漕ぎ手を必要としたことに加えて、積荷を積むスペースが限られており、貿易には不向きだったからである。

しかしコロンブスがアメリカに到達すると、列強が獲得した植民地の経営に、新たに大量の労働力が必要となる。海を超えて植民地にわたった征服者の数は限られていたので、まずは先住民があてにされた。スペイン出身の聖職者（ E ）は『インディアスの破壊についての簡潔な報告』（1552年）を著して、先住民への不正や残虐な行為を告発している。しかしながら先住民人口に壊滅的な打撃を与えたのは、ヨーロッパ人による攻撃や残虐な行為以上に、インフルエンザ、（ F ）、麻疹、腸チフスなど、彼らが免疫を持たない病原菌だったようだ。1520年に現在のメキシコの地にもたらされた（ F ）の大流行では、アステカ帝国人口のほぼ半数が死亡したとされる。ピサロがインカ帝国を攻撃した際にも、スペイン軍が到達する前に、この病気が皇帝をはじめとする多くの先住民の命を奪っていた。現在のメキシコからカリブ海地域にかけての先住民は、スペインによる征服後わずか100年余で、およそ5,000万人から400万人に減少したと言われている。こうして、特に西インド諸島や南米大陸の熱帯地方でサトウキビやカカオなどの栽培にあたるため、熱帯地方の気候に慣れ、病気への免疫を持ったアフリカ大陸の黒人が、大量に連れて来られるようになったのである。

本格的な黒人奴隷貿易の制度をつくりあげたのはポルトガルの商人だったが、スペイン、オランダ、のちにフランスやイギリスの商人たちが加わった。奴隷商人は、アフリカの部族の首長を介して、彼らが戦争で得た捕虜たちを、武器や酒や、ガラス玉のような工芸品と交換した。彼らは黒人奴隷を船で南北アメリカ大陸および西インド諸島に運び、奴隷を売却した代金で購入した砂糖やラム酒、タバコ、カカオなどの植民地産品をヨーロッパに持ち帰る「三角貿易」で財を成した。「積荷」であった奴隷たちを運ぶ船の劣悪な環境は想像に難くない。イギリスで産業革命が起こると、原料としての綿花が植民地産品として重要性を増し、北米大陸の綿花プランテーションにも大量の黒人奴隷が労働力として投入された。イングランド中西部の海港都市（ G ）は、歴史的建造物や街並み、倉庫群などが世界文化遺産に登録されているが、その繁栄を支えた一因は奴隷貿易だった。1785年に紡績業に

蒸気機関が導入されて綿工業が繁栄すると、( G ) の港に荷揚げされた綿花は、河川や運河によって内陸の工場地帯に運ばれた。そして1830年には、水運に代わる輸送手段として鉄道が敷設されることになる。

19世紀になると、人権思想の発展と奴隷たちの反乱の発生により、奴隷貿易が禁止され、奴隷制度も廃止されるようになる。フランス植民地サン・ドマングでは、奴隷の子として生まれた( H ) を指導者として黒人奴隷たちによる独立運動が起こり、1804年にハイチという独立国家が誕生した。しかしながら、イギリスで奴隷貿易禁止の法律が制定されたのが1807年、奴隷制度が廃止されたのが1833年、アメリカ合衆国で奴隷制度が廃止されたのは南北戦争を経たのちの1865年、ブラジルでは1888年と、南北アメリカから奴隷制度が姿を消す過程には1世紀近くを要したのである。

3世紀以上におよぶ強制的な人の移動は、人口構成にとどまらず、文化的にも大きな痕跡を残すことになった。アメリカで生まれた音楽ジャンルとして世界中に愛好者の多いジャズやゴスペル、ラテン文化の代表のように捉えられるサンバなどは、その好例である。ゴスペルが生まれたのは、南北戦争後も( I ) 法によって白人と生活空間を分離されていた黒人たちが、楽器のない教会で、自分たちの信仰や希望を表現するために、アカペラで賛美歌を歌ったことによる。サンバを踊り明かすりオ・デ・ジャネイロのカーニバルは、カトリックの祭りであったカーニバルを、黒人たちが自らの音楽と踊りで祝ったのがもとになっている。これがブラジルを代表する文化となった背景には、1930年には無血革命で1951年には選挙で政権をとった( J ) 大統領が、アフリカの黒人文化に起源を持つアフロ=ブラジリアン文化を、人種的には多様なブラジルの国民文化としたことがある。

IV 以下の文章を読み、空欄( A )～( E )に最も適切な語句を記入し、下線部(1)～(5)に関する各設問に答えなさい。ただし空欄( B )～( E )は漢字で表記すること。

1945年8月、日本と中国の長い戦争は、中国にとって「惨勝」というべき結果に終わった。戦場となった中国の国土の荒廃や人々の困窮は甚だしかった。戦争直後も国民党と共産党の間では日本軍の武装解除をめぐる抗争が絶えず、1946年6月、国民党は共産党の支配地域に対して全面的な攻撃を開始した。国共両軍の内戦は、当初はアメリカから武器と資金の援助を受けた国民党が優勢であったが、国民党支配地域では深刻な物価上昇が民衆生活を圧迫した。インフレ対策として、<sup>(1)</sup>1948年8月には金円券が発行されたが、新通貨は価値を維持できず、国民政府は財政再建に失敗した。他方、



共産党は軍事的にはソ連の擁護のもと、早期に東北を制圧して正規軍部隊を整備した。さらに、共産党支配地域において土地改革を推進し、自作農の生産意欲を高め、多くの農民の支持を集めていた。

優勢に転じた共産党の人民解放軍は、1948年までに華北も支配下におき、1949年春までには華中の大都市も陥落させて、共産党側の勝利が決定的となった。1949年10月1日、毛沢東が北京の天安門の上で、中華人民共和国の成立を宣言した。中華人民共和国は、建国直後にソ連・東欧諸国・インドに承認され、西側の主要国では1950年1月に（ A ）によっていち早く承認された。他方、1949年12月、蔣介石は台湾に逃れ、そこで中華民国政府を維持した。国民政府移転後の台湾では、中国から移住した「外省人」が台湾に在住していた「本省人」を支配する体制が続いたが、<sup>(2)</sup>1988年になって台湾生まれで「本省人」の総統が初めて誕生し、そのもとで民主化が進められていくことになった。

中華人民共和国は、1953年から第一次五カ年計画を開始し、ソ連の技術協力を受けながら、国営重化学工業の強化をめざすプロジェクトを推進した。しかし、急進的な社会主義化政策には行き詰まりが見られ、さらにソ連との対立が深まるなかで、1958年頃から毛沢東らが従来のソ連モデルとは異なる中国独自の社会主義を目指して突き進んだのが、「（ B ）」政策であった。15年以内に鉄鋼をはじめとする工業生産高でイギリスを追い越すという高い目標が掲げられ、その実行のために、簡便な小型溶鉱炉による製鉄などが推進された。それと並行して、人民公社の設立が始まり、農民の生産活動が徹底的に集団化されていった。このような政策は、共産主義的なユートピアにつながるものとして人々の心をとらえたが、実際には、農業生産の停滞に自然災害が重なって、各地で食糧が不足し、多くの餓死者を出した。ついに毛沢東も政策の失敗を認めざるをえず、1959年に国家主席を劉少奇と交代する。劉少奇らの指導のもとで、後に経済調整政策と呼ばれる一連の政策が明文化されていった。これに対して、毛沢東が巻き返しを狙って引き起こしたのが、「プロレタリア文化大革命」である。この運動によって、国家主席の劉少奇が失脚し、1969年に冤罪で獄死した。文化大革命が成功したのは、人民解放軍が毛沢東の側についたことが一因となっている。人民解放軍を率いた国防部長の（ C ）は、『毛主席語録（毛沢東語録）』の編纂などによって毛沢東思想を広め、1969年に採択された党規約で毛沢東の後継者に指名された。しかし1971年には、（ C ）がクーデターの失敗後に飛行機で逃亡して墜落死したとされる事件が発生した。この事件は人々に、文化大革命に対する疑念を植えつけることになった。1976年に毛沢東が死去すると、「四人組」が逮捕されて文化大革命は終息した。

他方、国際政治においては、1954年、朝鮮とインドシナ問題の解決を議題としてジュネーヴ会議が開かれると、中国は五大国の一つとして周恩来を代表にして参加した。同年にはさらに、周恩来がインドのネルーと会談し、「平和五原則」を発表して注目を集めた。<sup>(3)</sup>1955年にはアジア・アフリカ会議（バンドン会議）が開かれ、中国は周恩来の巧みな外交と反植民地主義の言説によって、参加国指導者の理解と共感を呼んだ。しかし、計画されていた第2回アジア・アフリカ会議は、中印紛争や中ソ対立の影響によって新興独立国の結束が困難となり、開催されなかった。<sup>(4)</sup>中ソ対立は1960年代に激化の一途をたどり、この間、中国はアメリカとの対立も継続していたので、安全保障上の危機に

追い込まれた。

ソ連を主要敵と認識するようになった中国は、1970年代初めにアメリカへの接近を図り、1972年2月のニクソン大統領の訪中などを通して、米中関係は急速に改善に向かった。さらに、同年9月には田中角栄首相が中国を訪問して、日中共同声明が調印され、両国の国交正常化が達成された。日中共同声明に基づいて、1978年によく日中両国の戦争状態の終結が条約の形で決められた。この（ D ）条約は1978年8月に調印され、同年10月、当時の副総理である（ E ）が日本を訪れて、条約の批准交換式に出席した。この時に日本を視察した（ E ）は、1978年末までに実権を握ると、改革・開放政策を実行し、中国を経済発展に導いていく。その後、香港および<sup>(5)</sup>マカオが返還されるなど、中国は国際的地位を向上させていった。

設問（1）下線部（1）に関連して、1935年の幣制改革で統一通貨として流通させられ、1948年の幣制改革で金円券が発行されるまで使用されていた紙幣の名称を漢字で書きなさい。

設問（2）下線部（2）について、この台湾の政治家の名前を漢字で書きなさい。

設問（3）下線部（3）について、この会議に参加した国を以下の四つのうちから一つ選んで記号で答えなさい。

（ア）大韓民国

（イ）朝鮮民主主義人民共和国

（ウ）モンゴル人民共和国

（エ）日本国

設問（4）下線部（4）について、中ソ対立に関する記述として最もふさわしいものを以下の四つのうちから一つ選んで記号で答えなさい。

（ア）ブレジネフのスターリン批判を契機としておこった。

（イ）ソ連は中ソ技術協定を破棄し、中国からソ連の技術者を引きあげさせた。

（ウ）中国を支持する国は東側の国ではアルメニアだけとなった。

（エ）ノモンハンでおこった武力衝突で対立が頂点に達した。

設問（5）下線部（5）について、1999年に中国に返還されるまでマカオを領有していた国の名前を書きなさい。